

大学と連携した社会科教材研究

上越教育大学社会系コース・新潟県社会科教育研究会による

『平成の大合併～上越の過去・現在を綴り、未来を探る～』の共同開発

I. はじめに

上越教育大学社会系コース（コース長：松田慎也教授ほか教員11名）と、新潟県社会科教育研究会（会長：小林啓一妙高市立新井中央小学校長ほか小・中学校等の現職教員中心）は、社会科教材開発・授業改善研究を協力しながら永年進めてきました。とりわけ平成21（2009）年度以降は、上越教育大学地域貢献事業成果報告書『平成の大合併～上越の過去・現在を綴り、未来を探る～』を市内全ての小・中学校に、社会科地域教材資料として配付するなど、組織的連携を深めています。そこで、これら大学と連携した教材開発研究を紹介します。

II. 『平成の大合併～上越の過去・現在を綴り、未来を探る～』の開発

1) 研究開発の経緯

小学校3・4年生の社会科では、子ども達が住んでいる市町村が主な学習対象地域であるほか、5年生・6年生でも地域の様々な事象が、効果的な社会科教材として活用されます。そこで、それぞれの市町村は、社会科学習用の副教材（『わたしたちの〇〇市・町・村』といった冊子）を独自に開発・刊行して活用してきました。中学校の社会科でも、地理的分野で「身近な地域」の調査が、歴史的分野で「歴史の流れと地域の歴史」が学習内容に示されていることに象徴されるように、地域の様々な事柄は社会科学習の大切な教材となってきました。

しかし、上越地方で平成17（2005）年に進んだ合併は、地域の教材にした社会科学習に大きな影響を与えることになりました。例えば、小学校の社会科副教材は、合併した新しい行政単位毎に再編集する必要があります。さらに、社会科ばかりでなく、総合的な学習の時間等においても「地域の教材や学習環境の積極的な活用」が、より一層求められる時代になっています。

そこで、新潟県社会科教育研究会は、合併した新しい「市」について、詳細で活用しやすい資料を提供することを目的に、平成18（2006）年度より調査研究プロジェクト『平成の大合併～上越の過去・現在を綴り、未来を探る～』を開始し、年度毎に地域教材資料集を刊行することになりました。研究会会員には、上越教育大学社会系コース教員も多数いることから、同プロジェクト当初から大学教員も会員として参画してきました。さらに、上越地域の学校現場に成果を有効に還元するためには、より組織的に連携することが大切と考え、平成21（2009）年度から大学地域貢献事業として取り組んでいます。

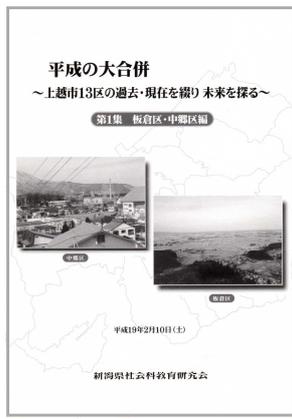
2) 成果報告書（社会科地域教材資料）の作成過程

各年度、合併した市町村の地域ブロック毎に、調査研究を次のように進めています。

- ①春～夏：対象地域を、調査分野別に会員が分担し、現地調査を遂行
- ②秋：秋季研究大会で各分野別に報告し、大学教員を交えて討議
- ③冬：調査・討議をふまえて原稿完成
- ④年度末：成果報告書の刊行・配布

3) これまで刊行した『平成の大合併～上越の過去・現在を綴り、未来を探る～』

第1集 板倉区・中郷区編（18年度）



第2集 三和区・清里区・牧区編（19年度）



第3集 頸城区・大潟区編（平成20年度）



第4集 柿崎区・吉川区・名立区編（21年度）



第5集 妙高市編（22年度）



第6集 安塚区・蒲川原区・大島区編（23年度末刊行予定）

それぞれ、地域の概要、農業・漁業、工業、観光、歴史等の分野別に構成。具体的内容は、展示した報告書をご覧ください。



調査結果の発表・討議



調査地点の見学

III. その他の連携活動

社会系コースと新潟県社会科教育研究会では連携し、以下の活動や、展示物した教材・報告書刊行なども行ってきました。



夏季全国巡検（現地学習会）の実施
2010年夏 水俣市への訪問



夏季全国巡検（現地学習会）の実施
2011年夏 足尾銅山跡への訪問



学習用地図の編集
「高田平野全図」を活用した授業



研究大会での共同学習
院生も交えた現地学習（長岡市和島）

IV. おわりに

開発した地域教材資料の一層の活用など、社会科授業の改善に資するため、より連携を強化しながら研究活動を展開する予定です。

なお、本連携活動や研究会入会等については、新潟県社会科教育研究会事務局（上越市立北城中学校社会科担当教員）へどうぞ。

（ポスター作成：志村喬（上越教育大准教授・連携担当）・小林朋広（斐太南小教諭・新潟県社会科教育研究会幹事長）